

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272400417		
法人名	社会福祉法人鶴松会		
事業所名	グループホーム鶴松園		
所在地	〒037-0065 青森県北津軽郡鶴田町廻堰字上野尻142		
自己評価作成日	平成24年9月20日	評価結果市町村受理日	平成23年11月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成24年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>医療面での対応が多くなりましたが、そんな中でも個々の入居者の要望に応える為、職員同士連携を図りながら対応しています。また、敷地内の畑を利用しその入居者の方にあつた作業を担っていただくことで少しでも張りのある生活を送っていただけるよう支援しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>交通アクセスが良好な地方道から少し入った田園地帯に位置し、静かな環境の中、入居者の笑顔から落ち着いた生活が感じられた。入居者の重度化と医療面で、地域にある社会資源の変化により対応に苦慮しているが、その中でも理念に基づいたより一層のケアが実践されるよう、法人内やホーム内でも柔軟な対応ができるように努力されている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個々にとつての理念「あんしん・あんぜん・あたたかい」がどういふ事か考え実践出来るよう話し合っています。	法人理念を基にホーム独自の理念を創設時から掲げており、理念が確認できるようにホーム内に掲示されている。定期的な確認作業は月1回の会議の場で行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	出身集落の理美容院を利用し、出来るだけ地域とのつながりを保とうとしています。	地域の特性から法人の特別養護老人ホームが認知されている。近隣の事情も考慮し、ホームとしてできる限り利用者本位の支援に基づき地域との付き合いが実践されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホーム便りや鶴松園たよりを通じ入居者の様子や、認知症の方の水分補給の大切さ等を伝えています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではグループホームでの活動内容を報告したり、グループホームに関わる環境変化(医療体制等)について意見交換をしています。	地域包括支援センター・民生委員をはじめ参集メンバーを確立し運営推進会議を開催しているが、3ヶ月ごとの開催となっている。	基準省令の定めにより、運営推進会議は2ヶ月に1回以上の開催が望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	医療面の対応について困ったことがあり意見を聞いたりして連携は密に取っています。	公的機関である協力病院の体制が変わったことで、町役場との連携が盛んに行われている。町役場担当者の他に地域包括支援センターとの関係も良好である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむを得ない理由で身体拘束をしたとしても当たり前と思わず、状態に応じて拘束を解きゆったり過ごしていただくようにしています。	身体拘束に関するマニュアルの整備や拘束に関する弊害について、職員間での認識がある。身体拘束のないケアに日々努力している。	身体拘束禁止11項目の解決方法や、それに伴う具体的手順を明確にされることに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で作成した指針を熟読するよう全体会議で毎月のように指導を受け、虐待はあってはならない事だと認識されています。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に権利擁護制度を利用するかどうかの判断に迫られた機会があり、勉強させていただきました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時はもちろん、制度や利用料金に変更があった場合はきちんと説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議委員に家族も入り意見を聞いています。	面会時が家族からの意見や要望が聞き取れるチャンスと考え、細かなやり取りがされている。担当者不在であっても連絡や報告ができるように体制化されてる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の職員打ち合わせを行っており、意見を反映させています。	法人の全体会議の後、ホーム内の会議も行われている。些細なことであっても入居者の生活に反映されるものと考え、きちんと下からの意見も汲み上げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給休暇や希望の日に休みが取れるように配慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で用意した指針を基に勉強したり、外部研修に参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	併設する特養ホーム、デイサービス職員との会議や打ち合わせを通じてサービス向上を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ベッドや衣装ケースの位置など確認を取りながら安心していただけるよう配慮しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者本人と家族の要望が違う場合もあり、よく話を聴くようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記同様ご本人・家族共によく話を聴いて対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	園芸作業や野菜の下ごしらえなど、「出来る」役割を担っていただいています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族でなければ出来ないこともあり、職員と連携を取りながらご本人を支えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や友人に電話をしたり、なじみの美容院を利用したりして支援しています。	地域の特性に合わせ、理髪や買い物など入居者の意向を取り入れながら、ホームとしての支援がされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の異動があった時や本人の性格に合わせて、職員は気まずくならないよう配慮・仲介しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人や家族からの相談はありませんが、面会時や日頃買い物等職務外で会った時は会話を持つようにはしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望・意向は把握出来ていると思います。ただ、複数人生活する中でそれを全て実現することは出来ず葛藤の連続です。	日々の関わりの中で表情や言動などから個々の要望を汲み取り、心遣いにより細かくサポートしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族から話を聴い事を記録に残し、職員間で情報を共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「出来ること」を把握しながら役割を担っていただいています。自己主張の強い方が多くバランスを取るのに苦労しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員とは日頃意見を聞きながら計画に反映させています。また話す機会がある時は現況報告しています。	毎朝のミーティングで入居者の変化や状況を細かく確認し合っている。その他、些細な出来事や感じたことはノートやメモなどで情報を共有している。日頃蓄積された情報をセンター方式などを活用しプランの作成にあたっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿ったサービス提供実践を記録に残すよう確認しています。また毎月職員会(事業所別)にサービスの確認や見直しなどしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人のADL低下でグループホームでの入浴が無理になったので、併設施設のリフト浴を利用させてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の中になじみの店等を含むのであれば、ご本人の豊かな暮らしを支える為に協働していると思われます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はグループホーム入居前にかかっていた病院をそのまま利用しています。	入居以前のかかりつけ医に受診できるよう体制を整えている。町の医療体制(電子カルテ)が進んでおらず、現在医療面での再構築に向けて取り組んでいる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が週1回バイタルチェックや受診を担当していますが、変化や異常があった時点で指示を仰いだり、特養看護師に看てもらって対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今鶴田町を含んだ広域での医療体制の見直しがあり、グループホームもそれに合わせて今まで以上に医師との関係作りに努めているところです。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	上記のこともあり、個々の家族と話し合いを進めているところです。	ホームとして、さらには法人の意向として出来るだけ本人、家族の意向に沿えるような方向性になっている。現状医療面での改善も踏まえ、体制の再構築を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度に入り緊急時の連絡体系やAED使用方法を確認しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年併設の特養と合同で総合避難訓練をし避難経路をなど確認しています。	併設の特別養護老人ホームや近隣の消防団との連携が確立されている。災害時に備えた訓練は消防署立会のもと6月に緊急通報の確認・消火器の操作方法、10月には夜間避難訓練と2回行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	何気なく言った言葉で傷つける事が多いので、日々気をつけるようにしています。	入居者の状況に応じ適切な対応が図れるように職員間で話し合っている。不適切な言動があればその場で互いに指導し合えるように心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	これが食べたい、外出したいとの意見を聞いて計画を立てたりしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿うように対応したいのだが出来ない時の方が多いです。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族より季節に合った服装にして欲しいと要望あり支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理はほとんど職員がしますが、下ごしらえなど出来る事は手伝っていただいています。片付けも出来る方は自分で下膳しています。	入居者の能力に応じ、下ごしらえや食後の後片付けなどを一緒に行っている。献立も季節感が味わえるようにホームで収穫された食材を利用したり、個々の嗜好に合わせた配慮がされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	誤嚥を起こしそうな方には、増粘剤使用やゼリー飲用で水分補給しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で歯磨きが出来ると言っても磨き方が不完全な方もいるので、職員が見守りや介助しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	体調が悪かった時はオムツ使用した場合もありますが、体調に合わせてトイレ誘導を多くし、体調崩す前の綿パンツ+尿取りに日中は戻りました。	個々の排泄状況に応じた支援ができるように、細かく観察し介助している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便ノイローゼのような方がいて、水分を多く摂ったり運動するよう働きかけています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	1番に入浴したい人が複数で、入浴の順番で混乱が起きないように配慮しています。	温泉を利用した入浴ができる。身体能力や入居者の意向に合わせ柔軟な対応がされている。機械浴での対応も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	明るくして眠りたい方には灯りをつけたままにしていますが、隣の方から苦情が出た事もあり説明しました。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬に関しては間違ってもいけないのでこちらで管理したいところですが、自分で管理している方もいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「何もしないとボケるから」とチラシでゴミ箱作りをしている方もいます。あっという間にチラシがなくなるので職員が自宅から持ってきて作業の支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には外出できていないのが現状です。出来るだけ外出したいという希望を叶えるため計画を立てているところです。	入居者の希望する場所や季節を感じられるような企画運営がなされている。ホームの実情を踏まえた上で、不公平にならないように支援されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方は本人が所持しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	週に4～6回と家族に電話をかけている方がいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	理由があつてホールで1人でテレビを独占していた方がいましたが、他の入居者から苦情が出るようになったので、家族にも相談し自室にテレビチューナーを用意してもらいました。	生活感があふれる設えであり、それぞれに決まった場所がある。入居者にとって居心地の良い場所となるよう気配りされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の相性を考えて、必ずしも同じ場所で過ごすのではなく、程よい距離を取って居心地のよい空間で過ごしてもらうようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の要望に応え、マットレスを外したり備え付けたりと心地よく過ごせるよう対応しています。	プライベートな空間として十分な広さがあり、各居室にはトイレも設置されている。プライバシーも保護されつつ、人の気配が感じられるような配置でもあり、本人が安心できる空間となるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	特に夜間自室トイレの場所が認識できず部屋のあちこちに排尿する方がいます。目覚めた時にトイレがわかるよう、熟睡したらトイレの灯りを付け、カーテンで洗面台を隠すようにして便器に誘導し気持ちよく排泄できるよう援助しています。		